

馬馳畢、少將若不堪馳馬可申障由歟件行幸之日、天皇御殿之後、內侍臨觀召人、即近衛將參進、奉內侍宣召王卿、(中略)王卿隨召參上云々、

〔拾芥抄中未〕神泉院天子遊覽所、以近衛次將爲別當、乾臨閣謂之正殿、金剛盤石、二條南、大宮西八

〔日本紀略桓武〕延曆二十年九月丁卯、幸神泉苑、

〔日本紀略桓武〕延曆二十一年二月癸巳、幸神泉苑、泛舟曲宴、

〔寬平御遺誠〕延曆帝王中略、至苦熱、朝政後、幸神泉苑、納涼行幸之時、先令問左右近中少將、即喚手

與御之、行路之次、若有御興、令近衛等相撲、是爲好相撲也、

〔日本後紀平城〕大同三年七月丁亥、幸神泉苑、觀相撲、令文人賦七夕詩、

〔類聚國史帝王〕大同四年九月壬子、幸神泉苑、觀射、兼命文人賦詩、賜祿有差、五年六月庚午、幸神

泉苑、有勅召文人、令賦釣臺詩、賜祿有差、

〔日本後紀嵯峨〕弘仁三年二月辛丑、幸神泉苑、覽花樹、命文人賦詩、賜綿有差、花宴之節、始於此矣、

〔日本後紀嵯峨〕弘仁三年九月甲子、幸神泉苑、宴侍從以上、奏伎、命文人賦詩、五位已上及文人、賜祿有差、

〔類聚國史帝王〕天長四年四月乙巳、幸神泉苑、歷覽垂釣、癸丑、幸神泉苑、遊釣、五年六月丁丑、幸

神泉苑、右衛門口獻物、

〔古今著聞集政道忠臣〕寬平宇の遺訓にも、春風秋月若無實事、幸神泉北野、且翫風月、且調文武、不

可一年再幸、又大熱、大寒、慎之と侍り、

〔古今著聞集政道忠臣〕神泉苑正殿を乾臨閣となづけて、近衛の次將を別當になして、天子つねに

遊覽有て、風月の興、管絃の遊有けり、又宴飲も侍けるを、延喜御時醍醐、天神菅原の臣下にてお

はしましけるとき、いさめ奉られければと、いまりにけり、

○按ズルニ、朱雀天皇以後ハ、神泉苑行幸漸ク絶タルガ如シ、姑ク附記シテ後致ニ供ス、